

地球温暖化に関する国内外の動き

	国際的な動き	国内の動き
1985 (S60)	<ul style="list-style-type: none"> ■フィラハ会議 <ul style="list-style-type: none"> ・国連環境計画(UNEP)主催により、オーストリアで開催 ・科学者による地球温暖化に関する初の国際会議 ・21世紀前半に地球の平均気温の上昇が人類未曾有の規模で起こりうるとの声明を発表 	
1988 (S63)	<ul style="list-style-type: none"> ■トロント会議(気候変動に関する国際会議)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化に関する初の国際会議 ・CO₂の排出量を2005年に1988年レベルより2割削減することを提案 ■IPCC設置(UNEPと世界気象機関(WMO))がIPCCを設置 <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化に関する科学的側面をテーマとした初の政府間における公式な検討の場 	
1990 (H2)	<ul style="list-style-type: none"> ■IPCC第一次評価報告書発表 	<ul style="list-style-type: none"> ■地球温暖化防止行動計画を策定(地球環境保全に関する関係関係会議決定) <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化対策を総合的・計画的に推進するための方針及び取り組むべき対策の全体像
1992 (H4)	<ul style="list-style-type: none"> ■環境と開発に関する国際連合会議(地球サミット)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル・リオデジャネイロで開催 ・気候変動枠組条約を締結、155か国が署名、1994年発効 	
1995 (H7)	<ul style="list-style-type: none"> ■IPCC第二次評価報告書発表 ■COP1(ドイツ・ベルリン)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・COP3までに先進国の温室効果ガスの削減目標を設定する議定書の作成を決定(ベルリン・マンデート) 	
1997 (H9)	<ul style="list-style-type: none"> ■京都でCOP3を開催し京都議定書を採用 <ul style="list-style-type: none"> ・各国ごとに法的拘束力のある温室効果ガスの削減目標を設定 ・京都メカニズム(JI, CDM, 排出量取引)に合意 	
1998 (H10)	<ul style="list-style-type: none"> ■COP4(アルゼンチン・ブエノスアイレス)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ブエノスアイレス行動計画を採用 京都メカニズムの具体的なルールや順守の問題についてCOP6での決定を目指して検討することに合意 	<ul style="list-style-type: none"> ■地球温暖化対策推進大綱を策定(地球温暖化対策推進本部決定) <ul style="list-style-type: none"> ・環境と経済の両立、ステップ・バイ・ステップ・アプローチ、各界各層一体の取組推進、国際的連携の確保など方針提示 ■エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)を改正 <ul style="list-style-type: none"> ・トップランナー方式の導入 ・大規模エネルギー消費工場に省エネ計画作成提出の義務づけ ■地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)制定 <ul style="list-style-type: none"> ・国、地方公共団体、事業者、国民の責務を明記
1999 (H11)	<ul style="list-style-type: none"> ■COP5(ドイツ・ボン)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・日本及び欧州が2002年までの京都議定書発効の必要性主張 ・ブエノスアイレス行動計画の実施を再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ■地球温暖化対策に関する基本方針を策定(閣議決定) <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策推進法に基づく総合的・計画的な地球温暖化対策のための基本方針
2001 (H13)	<ul style="list-style-type: none"> ■IPCC第三次評価報告書発表 ■アメリカ・ブッシュ大統領が京都議定書離脱を宣言 ■COP7(モロッコ・マラケシュ)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・京都議定書の運用細則に実質合意(マラケシュ合意) 	
2002 (H14)	<ul style="list-style-type: none"> ■「持続可能な開発に関する世界首脳会議」(ヨハネスブルグ地球サミット)開催 ■COP8(インド・ニューデリー)を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・デリー宣言を採用し、途上国を含む各国が排出削減のための行動に関する非公式な情報交換を促進することを提言 	<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー政策基本法公布 ■省エネ法改正 <ul style="list-style-type: none"> ・大規模工場に準ずる大規模オフィスビルなどにエネルギー管理義務 ■地球温暖化対策推進法を改正 <ul style="list-style-type: none"> ・京都議定書目標達成計画の策定 ■地球温暖化対策推進大綱の見直しを地球温暖化対策推進本部決定

	国際的な動き	国内の動き
2005 (H17)	<ul style="list-style-type: none"> ■ EU域内排出量取引制度(EU ETS)が開始 <ul style="list-style-type: none"> ・欧州に本格的な排出量取引市場が出現 ■ 京都議定書発効 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ、オーストラリアなどが不参加 ■ イギリスでグレンイーグルズ・サミットを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・G20 対話の設置に合意 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 京都議定書目標達成計画 閣議決定 <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止行動計画, 基本方針を継承 ■ 省エネ法改正 <ul style="list-style-type: none"> ・運輸, 工場・事業場, 住宅・建築物分野における対策を強化 ・消費者への情報提供新設 ■ 地球温暖化対策推進法を改正 <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス算定・報告・公表制度の導入
2006 (H18)	<ul style="list-style-type: none"> ■ オーストラリア・シドニーで APP 第1回関係者会合を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・APP の枠組みを規定する憲章と8分野のタスクフォース立ち上げ合意 ■ イギリスのスターン博士が「気候変動の経済学」(通称「スターン・レビュー」)を発表 <ul style="list-style-type: none"> ・対策を早期かつ強力に実施すれば経済的な便益をもたらすと主張 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地球温暖化対策推進法を改正 <ul style="list-style-type: none"> ・京都メカニズム活用のための制度を導入
2007 (H19)	<ul style="list-style-type: none"> ■ アメリカ・ニューヨークで国連気候変動に関するハイレベル会合を開催 <ul style="list-style-type: none"> ・適応, 緩和, 技術, 資金について集中的に議論 ■ IPCCが第4次評価報告書を提出 ■ グレンイーグルズサミット(G8 首脳会議)開催 ■ COP13(インドネシア・バリ)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・直前にオーストラリアが京都議定書批准。先進国で批准していない国はアメリカだけとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 21 世紀環境立国戦略を策定(閣議決定) <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題は, 21 世紀に人類が直面する最大の課題と認識 ・「気候変動問題の克服に向けた国際的リーダーシップ」等の8つの戦略を提示 ■ 安倍首相, 「クールアース 50」を発表 <ul style="list-style-type: none"> ・世界の温室効果ガス排出量を 2050 年までに半減する長期目標提示
2008 (H20)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 京都議定書の第一約束期間開始 <ul style="list-style-type: none"> ・2012 年までの5年間 ■ 洞爺湖サミット(G8 首脳会議)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・2050 年まで長期目標, 中期目標について基本線の合意 ■ COP14(ポーランド・ポズナニ)開催 ■ COP15(2009 年 12 月)に向けた特別作業部会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・2050 年に向けた目標設定等を検討予定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福田首相, ダボス会議で「クールアース推進構想」を発表 <ul style="list-style-type: none"> ・セクター別アプローチなどを提案 ■ 京都議定書目標達成計画を全部改定(閣議決定) <ul style="list-style-type: none"> ・対策・施策を追加 ■ 省エネ法を改正 <ul style="list-style-type: none"> ・事業所単位の規制に加えて事業所単位の規制等を導入 ■ 地球温暖化対策推進法を改正 <ul style="list-style-type: none"> ・京都議定書の目標達成に向け, 地方公共団体実行計画の充実のほか取組強化。 ■ 洞爺湖サミット開催に向けた福田首相演説(福田ビジョン) <ul style="list-style-type: none"> ・日本の 2050 年までの温室効果ガス削減の長期目標(現状から 60~80%の削減)を発表 ■ 「低炭素社会づくり行動計画」を閣議決定
2009 (H21)	<ul style="list-style-type: none"> ■ ラクイラサミット(G8 首脳会議)開催 <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命以降の気温上昇を2℃以内に抑える必要性について一致。 ・2050 年までを長期目標として先進国全体で 80%削減を明言 ■ COP15(デンマーク・コペンハーゲン)開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 内閣府で「環境モデル都市」を選定 <ul style="list-style-type: none"> 13 都市を選定 横浜市, 京都市, 堺市, 北九州市, 千代田区 帯広市, 富山市, 飯田市, 豊田市, 水俣市 下川町, 梶原町, 宮古島市, ■ 麻生首相, 日本の中期目標を発表 <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年に温室効果ガス排出を 2005 年比 15%削減(真水) ■ 鳩山首相, 新たな中期目標を発表 <ul style="list-style-type: none"> ・2020 年に温室効果ガス排出を 1990 年比 25%削減